

こばり

ヨミ協だより

第10号



小針の歴史探訪



渡部 明雄

今から百三十六年前、明治十一年（一八七八年）時の明治政府は、明治維新より世情いまだ安定せず、人心安定を目的に、明治天皇の北陸巡幸を計画し、後の早稲田大学の創設者大隈重信や岩倉具視などを随行員とし総勢九〇〇名近い人数で、明治十一年八月三十日東京を馬車行列で出発した。九月十六日弥彦村の宿泊施設を午前七時二十分出立し、岩室、巻で休憩し、赤塚で昼食を取り、内野で休み、午後二時三十分、小針、渡部宅で休憩を取られ午後四時十分その日の宿泊所、新潟礎町・白勢宅に到着された。このお休みを記念し当時の坂井輪村が二百三十三円の工費をもって十一月にこの石碑を建立した。後日、渡部家には菊の御紋付三つ組木杯一式、紅白の羽二重一匹、金十五円が下賜されました。



明治天皇御在居所跡

明治天皇が立ち寄りられた場所



コミュニティ協議会ってなあ〜に？



Q 事務所はどこにあるの？

A 小針球場内の「小針まちづくりセンター」内にあります。

Q 年間経費はいくら？

A 平成26年度の予算では、運営費58万円と活動費113万円を予算計上しました。



小針小学校区 コミュニティ協議会

自治会を中心に校区のPTA・福祉・交通安全・美化環境・老人会・セーフティスタッフなどの諸団体が加入しています。

自治会 19 諸団体 15

住民の意思の
伝達をする

Q いつできたの？

A 平成17年度から全市でコミ協結成の動きがあり、小針コミ協が平成18年7月30日に結成しました。

Q 費用は誰が出しているの？

A 活動費は1世帯あたり100円を加入自治会よりいただいています。また区からの運営助成金などの補助金も財源になっています。

Q いままでの自治会とコミ協のちがいはなあ〜に？

A いままでの自治会は、市の行政施策について正式なルートがなかったんだ！コミ協は、自治会や校区のいろいろな団体と一緒に問題解決にあたるんだよ！だから、地域の課題を協議して、区自治協議会を通じて、市政か区政に参画、協議ができます。

小針コミ協新役員名簿

会長	岩脇 正之
副会長	渡部 明雄
副会長	岩原 三男
会計監査	赤原 一明
会計監査	青柳 美代子
事務局長	前田 昭弘
会計	八木 成夫
事務局	狩谷 明美
防災・防犯部会長	渡辺 誠
福祉部会長	天城 忠司
環境部会長	渡辺 隆
青少年健全育成部会長	川瀬 恭子
文化・体育部会長	坪谷 孝

当コミュニティ協議会においては、地域のことは地域のみならず一緒に考え課題解決を担える組織に向け、一歩一歩前進するよう私をはじめ役員一同邁進いたしますので、自治会長ならびに加盟団体の皆様方のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

小針小学校区コミュニティ協議会も今年で九年目を迎えました。創立時より数々の尽力を頂いた諸先輩の皆様方に心より感謝申し上げます。私こと、今年五月二十五日の定期総会において会長に選任され大役に責任の重さを痛感しています。コミュニティ協議会は、自治会及び地域の各種団体等と連携しながら色々な地域活動を行っています。最近では地域における防災、防犯、福祉、交通安全、青少年健全育成の課題が山積し、解決に向け一層の協力と支援が求められています。

「地域の和と協力」でまちづくり

新会長 岩脇 正之



コミ協事務局だより

平成二六年度定期総会も終了し、新体制がきまりましたので紹介します。

部会の挑戦



わがまち小針の防災力

防災・防犯部会 部会長 渡辺 誠



新潟地震から五〇年、新潟市や市内各学校で防災教育が重要視され、小針小学校でも今まで以上に充実した防災教育を実施します。学校と地域自治会・保護者の連携した「合同防災訓練」を二回に分けて行います。

●地震・津波を想定した避難訓練。(六月一六日実施)
全市一斉地震対応訓練に合わせて、児童の屋上への避難訓練・防災講演会・児童引渡し訓練を学校で行いました。津波を想定した災害対応に、地域住民や保護者が学校への避難訓練を行いました。(当日、一〇〇余名の参加者がありました。)

●第三回「小針地区合同防災訓練」(九月二十日実施)

小針小学校(児童六六〇名他職員と地域自治会・保護者約四〇〇名の一〇〇〇名を超える大規模な訓練を行います。グラウンド・体育館の二会場に分けて、防災訓練を実施します。又、合同防災訓練の実施に際し、子供たちに自宅・地域で災害発生に遭遇した場合の避難場所・集合する場所を確認させます。)

●防災マップの作成

小針地区は、津波や洪水などの浸水による災害が十分想定されます。これらの備えに、各自自治会の避難所、避難経路の検討、海抜表示や浸水想定などを、地域地図に書き込み、防災マップの作成を企画しています。

地域と学校が連携した防災訓練

新潟市立小針小学校

地域防災の原点は、住民同士の助け合いです。しかし、地縁が希薄になってきている今日、近隣住民同士が声をかけ合うことすら難しくなってきたのではないのでしょうか。

今年も、新潟地震から五十年を迎える節目の年です。小針小学校では、地域と連携した防災教育を推進し、自分の命は自分で守る子どもの育成を目指した取組を推進していきます。具体的には、地域子供会を活用し、近隣児童で「子供防災五人組」を結成します。そこに、「コミュニティ協議会防災部、民生委員、保護者から協力をしていただき、地域における防災計画を作ったり、避難訓練を実施したりします。地域と学校が連携した防災訓練を実施し、子供を核にした地域における防災組織を試行することにより、地域の絆を深め、災害への意識を高め、地域防災へ寄与していきたいと考えております。

避難訓練よくできましたか！



地域住民のみなさんが真剣に取り組んでいますね！



災害に備えましょう！

- 地域住民は必ず、自分の避難場所をおぼえましょう！
- 避難指示が発令されたら、高台へ移動するか最寄りの学校または避難ビルに避難しましょう。
- 9月20日「小針地区合同防災訓練」にみなさん参加しましょう！

小針小学校地域の災害避難場所

屋内避難場所

小針小学校・小針中学校・青山小学校・東青山小学校など

屋外避難ビル

イオン新潟青山店・アピタ新潟西店・西新潟市民会館など

自治会の近況

老人クラブの組織拡大

小針一丁目自治会長 大西 東輝夫

町内は、約六百世帯の住宅地域で、住民の高齢化の進行が深刻になっています。

災害時には、要援護者五十二名に対し百四十名の方々に援護担当をお願いしているところですが、しかし平時においても、増加しつつある高齢独居者や高齢夫婦世帯の支援が課題となっています。

その担い手は、活発な老人クラブの組織拡大を図り、元気の会員互助活動の推進等が提案されています。支援体制について今後とも検討します。



高齢化・災害対応の

地道な取組み

小針幸町自治会長

酒井 孝明



当自治会は世帯数約六百という比較的大きな自治会で歴史も長く、夏祭り等の行事も盛んです。しかし、ご多分に漏れず高齢化に伴う独居世帯の増加や災害対応という問題を抱えています。世帯数が多いということはその分、会員の意識も多様で動きが取りにくいということでもありますが、地道に取り組んで行こうと思います。

現在は最大の行事である夏祭りの準備で大わらわです。みなさんもお出で下さい。と言いたい所なのですが出る頃には終わっていますね。

小針藤山「お茶の間サロン」

小針藤山自治会

小針藤山のお茶の間サロンは、平成二四年度から始まりました。新潟市社会福祉協議会が地域交流の場として使用していた施設(空き家)です。

市の「集会施設借上補助」による補助金、個人負担(一回百円)、集団資源回収奨励金等を活用し、責任者と協力者が中心になって計画立案や管理・運営をしています。

お茶の間サロンは、毎週火曜日(第五、祝日を除く)に定期的に開催し、茶話会や「市政さわやかトーク宅配」を活用し、派遣された講師による講演会などが中心です。年間四〇回程度開催し、毎回一五人以上が参加され、いつも和気あいあいと過ごしており、とても好評です。



みなさんとても楽しそうに過ごされていますね!!

こぼりのトピックス

朝採り新鮮で「うまい」「やすい」の
小針自治会農家の枝豆



毎年恒例の小針自治会沿線の農家の皆様方が丹精込めて生産された「つまい」「やすい」で評判の枝豆直売所が今年もオープンしました。直売所は無人店舗が多く、周辺の住民に喜ばれ午前中には売り切れる場合があるので早めにご購入をお勧めします。

なお、直売所の目印は沿線に「枝豆直売所」のぼりが立っています。

編集後記

「こぼりコミ協だより」第10号の発行にあたり、各部会報告のほか、地域の課題をテーマとした色々な情報を提供し、地域の皆様方に興味をもって読んで頂ければ幸いです。

また、「こぼりコミ協だより」では小針の声として皆様方のご意見、ご投稿をお待ちしています。ご協力をお願い申し上げます。(連絡先 前田事務局長 TEL・FAX 266-1851)